

(第3種郵便物認可)

Vグループ星港・マートル社長

日本船主との関係強化に意欲

専門組織「ジャパンフリートセル」設立

世界最大の船舶管理会社Vグループ（本社・英ロンドン）のシンガポール管理拠点Vシッパス・アジア・グループのアヌラク・マートル社長は本紙取材に応じ、日本船主との関係を一段と強化する方針を強調した。船用品・潤滑油の購買力をはじめとしたスケールメリットに加え、資源大手や欧米石油メジャーによる厳格なクオリティ要求への対応力を強みとし、日本市場での取引拡大を目指す。

11月上旬セミナー開催

Vグループは日本市場のさらなる開拓に向け、5年前からアドバイザリ契約のあるマリナーベイ・インシッピング社（福島謙治社長）とのパートナーシップを強化。さらに昨夏、シンガポールに日本専門組織「ジャパンフリートセル」を設立した。ジャパンフリートセルのセネラルマネジャーには、かねてより日本船主との親交があり評価の高いブラディープ・ウンニ氏（インド系船舶管理会社「ジャパンフリートセル」のインド系船管会社「ジャパンフリートセル」専属スタッフとして配置され、日本でのアフターサービスを提供している。さらに、顧客サービスの一環として、11月1日に東京、5日に広島、6日に今治（愛媛県）、7日に大阪で船舶管理セミナーを開催する予定。マートル氏とウンニ氏がS O X（硫酸酸化物）規制や豪州の船舶査定・格付け会社ライトシップへの対応、船舶事故事例について講演する。



マートル社長

マートル氏は「Vグループは資源大手や欧米石油メジャーとハイレベルなパートナーシップを構築しており、経験や人的ネットワークにたけたS I がしっかりと対応する」と自信をのぞかせた。一方、規模の大きさを求むるクオリティ要求への対応力を挙げる。ドライバルク分野では資源メジャーが運営するライトシップが年々、船賃要求を厳格化。タンカーでも欧米石油メジャーによる厳しいベッティング（用船の可否判断）をクリアし続けなければならぬ。

マートル氏は「Vグループは資源大手や欧米石油メジャーとハイレベルなパートナーシップを構築しており、経験や人的ネットワークにたけたS I がしっかりと対応する」と自信をのぞかせた。一方、規模の大きさを求むるクオリティ要求への対応力を挙げる。ドライバルク分野では資源メジャーが運営するライトシップが年々、船賃要求を厳格化。タンカーでも欧米石油メジャーによる厳しいベッティング（用船の可否判断）をクリアし続けなければならぬ。

Vグループは大株主の米ファンド大手アドベンツの潤沢な資金力も背景に、ここ数年、積極的なM & A（合併・買収）を推進。16年以降、セランディアや英ビビリー・シッパスマネジメント、英グレイグなどの買収により、規模を拡大している。取扱隻数は、フル管理とクルー管理を合わせて1000隻規模に達する。

News クリップ

■JERA

ベトナム電力と協業

LNG船運用などで連携

東京電力ホールディングスと中部電力の合併会社 JERA は18日、ベトナム電力公社（EVN）と LNG（液化天然ガス）バリューチェーン事業に関する覚書を締結したと発表した。LNG の共同調達、LNG 船の運用、受け入れ基地の開発、EVN の発電所での LNG 導入などについて協業を進めていく。

EVNはグループ全体でベトナムの発電容量の約1割を占める。JERAはベトナムの発電容量の約1割を占める。

TCLN

米市表の気多々にノバテクに通知

ノバテクに通知

ロシアの天然ガス大手でヤマル LNG（液化天然ガス）プロジェクトを主導するノバテクは22日、同プロジェクトに参加する TCLNG から同社が米国の中国船社制裁の対象外であるとの通知を受け取ったと発表した。ヤマルプロジェクトは安定供給を不安視する向きのも出ていた。

TCLNG は、CLNG と不定期船社タイケ

の得要ル下会、バニオてどけ